



男子決勝・徳島市立対徳島北 延長後半9分、勝ち越しのシュートを決めチームメートと喜ぶ徳島市立の玉川（左から2人目）＝徳島スポーツビレッジ（家段良匡撮影）

徳島市立 5連覇

男子

サッカー

【男子決勝】
（徳島スポーツビレッジ）

徳島市立 3 延長 2 徳島北
1 0 0 0 1 1
1 0 0 0 1 1

▽得点者【市】平尾、玉川 2
【北】前田、軍士

【評】徳島市立が土壇場で勝負強さを発揮した。延長後半9分、左からのセンタリングにゴール前の玉川が頭で合わせて決勝点を奪った。序盤は出足の鈍い徳島北を左

【徳島北】

村田 村岡 林田 川土
森 米
富野 久中山 小前 津富 岡 82 24

GK DF MF FW
FKKKH
FGKFS

川田 上野 人松 田尾 川 68 13 13
中廣 井佐 川 赤 松 金 玉

【徳島市立】

▽交代【市】披田（平尾）岡田
（川人）【北】渡辺（岡）勝井
（森）川崎（中村）富成（前田）

右に揺さぶり、平尾と玉川が立て続けにゴールを決めた。後半に追い付かれたものの、勝ち越しは許さなかった。1点を追う徳島北は後半28分に富士のゴールで振り出しに戻したが最後は力尽き、8年ぶりの王座奪還はならなかった。

徳島北・MF小林主将

（延長戦の末に敗れ）
「2点を先行されてもみんな諦めずに最後まで走った点は良かった。この悔しさを忘れず、四国総体では勝ち進んで徳島市立に雪辱したい」

集中切らさず決勝弾 徳島市立

延長戦も残り1分。誰もがPK戦決着を思い浮かべた時間帯でも徳島市立の背番号「10」を背負う玉川は、集中力を切らさなかった。「自分が絶対決める」。ゴール前で相手DFに競り勝ち、決勝のヘディングシュートを決めた。

2点のリードを追い付かれ、延長でも勝ち越せない嫌なムード。炎天下に走り続けた疲労もあったが、玉川はFWとして結果を出す」と強い気持ちで得点機を待った。決勝点は難しい高さだった。「キーパーの位置をイメージして冷静に合わせたと笑顔で振り返った。

昨冬の全国選手権県予選、今春の県新人戦と徳島北に惜敗。自信が揺らぎそうになったとき、みんな思い返したのが「（全国切符を逃した）先輩たちの涙だった」と

関主将は明かす。先輩がつなげてきた県総体連覇を絶やすまいと練習に励んだ。持ち前のボール保持とパスワークに速さと1対1の強さが加わった。河野監督も「チームとして集大成のとき」と話す。目指すは四国王座、そして真夏の頂点。関主将は「徳島の高校世代を代表する気持ちで挑戦する」と熱っぽく語った。（平尾貴宏）